

### K'sギネ・パソ塾二〇一九開催報告

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 教授 片瀨 秀隆  
講師(幹事長) 山口 宗影

令和元年八月二十四日(土)、二十五日(日)の両日に「K'sギネ・パソ塾二〇一九」をホテルグリーンピア南阿蘇で開催いたしました。この塾では病理組織診断を系統的に学ぶ機会が少ない若手の産婦人科医師を対象に、病理組織診断の基  
本・臨床診断に関する講義を行い、病理専門医が顕微鏡を通して検鏡の指導や解説を行います。三年間(二〇一八年、二〇一九年、二〇二〇年)の開催が予定されており今回は二回目の開催で、日本全国から六四名の産婦人科医師が参加しました。

講義内容は、産婦人科臨床と病理組織診断のそれぞれ分野から一つの疾患を解説するように予定され、子宮頸部腫瘍・疾患(熊本大学母子看護学 田代浩徳先生、川崎医科大学病理学 森谷卓也先生)、外陰腫瘍・疾患/腔腫瘍・疾患(岩手医科大学産婦人科学講座 馬場長先生、四国がんセンター病理科 寺本典弘先生)、卵巣性索間質性腫瘍(柳井

広之先生、大阪大学先端ゲノム医療学講座 前田大地先生)、腹膜腫瘍・疾患/卵管腫瘍・疾患(京科大学病理診断部 南口早智子先生)に関して、二日間にわたり講義を頂戴しました。さらに「先達からのメッセージ」として、京都医療センター 小西郁生先生から、また「産婦人科医の検鏡のころ」として、京都大学名誉教授 藤井信吾先生から、これまでのご自身の診療経験を通して得られた産婦人科診療における病理組織診断の重要性を教えてくださいました。



一日目、二日目共に、対象疾患のプレパラートを自由に検鏡する時間を十分に設け、受講生に検鏡の方法を指導しました。さらに、「Tumor Board」と称して、事前に受講生がインターネット上のバーチャル・スライドで対象疾患の診断に挑戦し、当日は顕微鏡の画面をスクリーンに映して、受講生と講師が議論し、活発な質疑応答がなされていきました。最後は、片瀨秀隆教授から婦人科病理の巨人達を紹介いただき閉会となりました。

最後になりましたが、開催にあたり多大なご支援を賜りました肥後医育振興会に深謝申し上げます。

Medical School)、Yoshiaki Nishimura (NIH)、R. Keith Reeves (Harvard Medical School)、国内から宮川 敬(横浜市大)、徳永研三(感染症研)といった、幅広い世代かつ第一線のエイズ研究者を招聘しました。本センター鹿児島キャンパスからも馬場センター長を含む二名のエイズ研究者、そして日本エイズ学会招聘の著名なエイズ研究者 Frank Maldarelli (NCI Frederick)、他にも Tomas Hanke (University of Oxford)、高折晃史(京大)等も、司会やディスカッションに参加いただきました。

### 第二十回熊本エイズセミナー報告

ヒトレトロウイルス学共同研究センター 教授・キャンパス長 鈴 伸也

今年度の熊本エイズセミナーは、同じ熊本で開催の日本エイズ学会のサテライトセミナーと位置付け、熊本城ホールを会場に学会前日の十一月二十六日に行いました。参加者約九〇名、内約三〇名が留学生を含む外国人学生・研究者と、例年通り国際色豊かなセミナーとなりました。海外から Ya-Chi Ho (Yale School of Medicine)、Mathias Licherfeld (Harvard

本セミナーは日本エイズ学会のシンポジウム等を補完する事を企図し、潜伏感染、HIV免疫、感染霊長類モデル、病原性に焦点を絞って行いました。セミナーと学会の計四日間を通じ、国内外の関連領域の研究者と密に議論出来た事は更なる共同研究の推進に意義が大きく、新たな国際共同研究も始まっています。昨年四月に改組した本センターについてエイズ研究コミュニティの理解を深める場ともなりました。海外からのリピーターも多くなり、例えば Mathias Licherfeld は二〇一四年以来二度目で、本センターの客員教授でもあり、最近彼が Nature 誌に寄稿した Commentary で